

岡山立 記録資料館だより

第9号

平成25年9月



写真左：高瀬舟水運の難所／和気郡苦木村高ノ瀬（平成25年8月8日撮影）、写真右：吉井川図の一部（苦木村と高ノ瀬の名が見える）

高瀬舟水運の難所

―平成二十五年企画展「岡山の南北水運」から―

江戸時代、旭川・高梁川・吉井川とその支流には高瀬舟が航行し、年貢米や薪炭、鉄等の特産物を河口の金岡（現在の岡山市東区金岡）・福島（現在の岡山市南区福島）・玉島（現在の倉敷市玉島中央町）に運んでいました。

高瀬舟は川や浅海を曳舟または帆走する平底の木造船で、3人または4人の船頭が乗り込んで操船していました。河岸で年貢米や物資を積んで川下げし、湊で荷下ろしをした後は塩や魚など地元では手に入らない物資を積み、川を上って帰りました。上り舟の時には、舟に引き綱をかけ、川岸から高瀬舟を曳いて進み、急な瀬などは船頭たちが集い、瀬越し穴に棒を突っ込んで、高瀬舟を担いで一艘ずつ瀬を越させる重労働を伴いました。

高瀬舟の航行には舟の遭難がつきものでした。当館所蔵の和気郡塩田村延原家資料には、天保十四年（一八四三）から安政四年（一八五七）までの遭難記録をまとめた「後年乃助船」があり、その記述から苦木村高ノ瀬（現在の和気郡和気町苦木）が吉井川の難所であったことが分かります。また、同家資料の「吉井川図」には、苦木村の川筋にはつきりと「高ノ瀬」と書かれており、舟の遭難を警戒していたことが伝わってきます。

今年度、当館では企画展「岡山の南北水運」を開催します。江戸時代から現在に至る、岡山県北部と南部をつないだ河川水運について、館内外の記録資料を通じて再考する展示を行います。御来館お待ちしております。（武本）

企画展「岡山の南北水運」

会期 平成二十五年十月二十二日（火）～十一月二十四日（日）

会場 岡山県立記録資料館一階展示コーナー（入館無料）

休館日 会期中の月曜日及び十一月三日（日）、五日（火）、二十三日（土）

講演会 「中世吉備の流通と河川」（講師 元就実短期大学教授 田中修實氏）

十一月二日（土）午後一時三十分～三時、当館研修室（参加無料）

くずし字読み方の豆知識

く街中にあるくずし字を読んでみよう

古文書を読みたいと思われたこと

はありませんか？学校で習った歴史や自治体史などの郷土の歴史は、もともと古文書を解読して作られています。

当館では、県史編纂事業を通して収集した資料（古文書や複製資料）を中心に保存しており、一般に閲覧利用していただいています。

郷土の歴史やご先祖のことについて詳しく調べるためには、くずし字を読む力（古文書リテラシー）が必要となります。しかし、いざ古文書を読むと思っても、くずし字をどこから読んでもいいのか、戸惑われることも多いかもしれません。

今年のアーカイブズウィークでは、「くずし字読み方」の豆知識教室と題し、古文書に親しんでいただくため、読み方のコツや基本的な知識を解説しました。内容の一部を紹介します。

古文書に使われているくずし字は、主に江戸時代から戦前の資料に散見されます。しかし、今日もくずし字の名残は私たちの生活の中から見出せます。

変体仮名に注意



写真1 「に志かハはし」

写真1は、岡山駅前通りと西川が交差する場所近くに架けられていた橋の親柱です。最後の文字は地中に埋まつてしまつて判読できませんが、「に志かハは（し）」と読めます。現在使われている平仮名は明治三十三年（一九〇〇）小学校令施行規則で採用されたのですが、それ以前は、同じ「し」を表すにも「之」「志」など数種存在しました。現在の「し」の字源となつている「之」以外を変体仮名と呼びます。よつて、これは「にしかははし」すなわち「西川橋」と読めることがわかります。

このように、仮名のくずし字を読むには「変体仮名」の存在に注意が必要です。辞書や古文書入門書に変体仮名の一覧がありますので、そのコピーを

片手に、町の中にある「くずし字」を解読してみても面白いでしょう。「き楚者」（きそば）や、「天婦羅」（てんぷら）などの看板や、お店の中では「越手茂登」（おてもと）、「志留古」（しるこ）などの文字が見つかるかもしれません。

ヘンヤツクリに注目

ではここからは、辞書を使つたくずし字の読み方の一例をご紹介します。



写真2 「後楽園」

くずし字を読む際の第一のポイントは、読めそうな文字から読むことです。第二のポイントは、扁、旁、冠、脚に着目することです。それぞれに特徴的なくずし方があるので、辞書の附録を使つて調べていきます。写真2の一字目の左の扁は、一本線になつていきます。扁の部分から、「シ（さんずい扁）」「にすい」「人扁」「行人扁」が一本線のくずし方であることがわかります。その中で用例を確認すると、「行人偏」の用例から、一字目が「後」であることがわかります。次に三字目を調べてみます。特徴的な点は「囲い」がある

ことです。「くにがまえ」を辞書の部首引きで引き、似たくずし字の字を一字ずつ確認していきます。そうすると「園」であることがわかります。一字目が「後」三字目が「園」、残る一字は「楽」：？と推測できたら、辞書の音訓引きで「楽」を引き、くずし方を確認します。このようにして、この石碑が「後楽園」と書かれていることがわかります。

くずし字は読みやすい字から読んでいき、前後の文字から推測していくのがコツです。また、読みにくい字も扁、旁、冠、脚などの部分に着目して、調べていけばよいでしょう。「楽」のように、半ば記号化されて大きく崩れている字は「そういうもの」として覚えていきます。

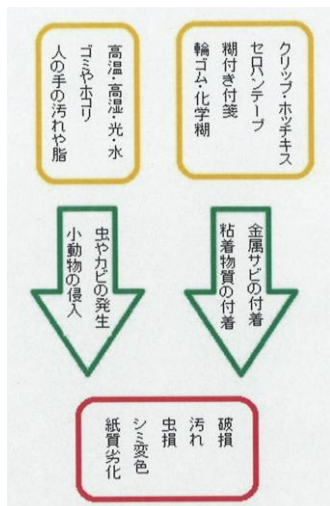
今回はくずし字の読み方の初歩を説明しました。「候文」などの文章を読むためには、また違ったコツがあります。古文書入門講座など別の機会に触れたいと思います。

古文書が読めるようになると、博物館の展示をより深く読み解くことができ、歴史の世界が広がります。また、街歩きが今以上に楽しくなると思います。皆さんも、街の看板や石碑から色々なものを発見してみませんか。（近藤）

古文書保存の豆知識

自宅でもできる古文書の保存について

ご家庭や公民館等で古い資料を保管されている方から、資料の保存方法について相談をよく頂きます。今年のアーカイブズウィークでは、専門の道具がなくてもできる資料の保存方法について説明しました。次の四点に注意してください。



一 資料保存の大敵を知りましょう

①高温高湿・光・水・ゴミやホコリは、虫やカビの発生や小動物の侵入を招きます。

②クリップ・ホッチキス・セロハンテープ・糊付き付箋・輪ゴム・化学糊等の使用は、汚れや金属サビ、粘着物質が資料に付き、シミや変色、紙の劣化の原因になります。

二 保存環境を整えましょう

① 収納する時

資料や収納箱のホコリやゴミを取り除きましょう。収納場所は、直射日光の当たる場所を避け、温湿度変化が少なく、湿気が少ない場所が適しています。また、収納箱は紙箱や木箱、プラスチック等様々な材質のものがあり、それぞれ一長一短あります。資料は和紙等に包んでから箱に入れると、なお良いでしょう。

しかし、やむをえない事情で理想的な保存環境に収納できない場合も多々あります。その場合は保存上の注意点を知り、欠点を補う対策を取りましょう。

② 定期的なメンテナンス

半年ごとに収納容器から出して虫干し（風通し程度）しましょう。虫食いや汚れはないか、資料の状態を確認しましょう。その際に防虫剤（パラジクロロベンゼン・パラジクロルベンゼンが成分の市販のもの）を入れ替えましょう。

③ こんな状態は注意！

水に濡れている、湿っている、カビが生えているなどの状態は、早い処置が必要です。傷んだ資料を別に保管し、適当な処置をしましょう。傷んだ資料に触れる際には、換気に注意し、眼鏡・手袋・マスク等を着用しましょう。

三 利用の際には注意しましょう

①取扱場所での飲食・喫煙はしないでください。（食べこぼし・水分・火の粉・煙など）

②資料に触る前に手をよく洗ってください。時計や指輪等の装身具は外しておきましょう。

③糊がはがれた資料や虫食いなどを直す場合は、使用する道具に注意しましょう。クリップ・ホッチキス・セロハンテープ・糊付き付箋・輪ゴム・化学糊等は、使用しないでください。



写真（ホッチキスの跡）

④メモを取る場合などは鉛筆を使用しましょう。直接古文書に書き込む

ことはやめましょう。コピーも褪色や紙質劣化の原因になります。できるだけ避けましょう。

四 現在の状態を記録しましょう

思わぬ災害や事故に備えて、写真などの複製を作製しておきましょう。東日本大震災でも、原物はなくなってしまうが、事前に写真を撮影しておいたので情報は残ったという事例は多く報告されています。日常においても、資料を見るときには複製を利用し、現物は保管しておくことで、保存の面でも効果があります。また、傷んだ収納箱を取り替える際にも、今まで収納していた箱の情報（大きさ、材質、箱書き等）は記録して残しておきましょう。

資料の状態や保管状況により、保存方法も異なりますが、以上は資料保存の基本です。現在のところ、資料の保存には万全という方法は残念ながらありません。定期的に資料の状態を確認して、被害を未然に防ぐことを心がけましょう。

当館は約二五万点の資料を保存しています。大切な資料を後世に残すべく、整理・保存には、細心の注意をはらっています。もっと詳しくお知りになりたい方は、当館までお問い合わせください。（上井・山下）

■所蔵資料展記録

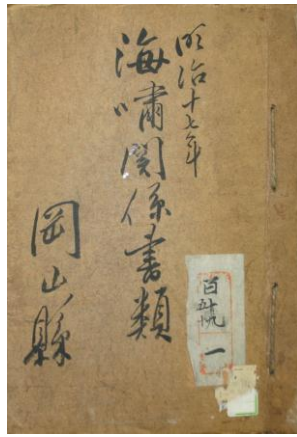
○第五十三回所蔵資料展
〔平成二十四年九月～二十五年九月〕
「地震と水害の記録」

会期

平成二十四年九月四日～十一月四日

おもな展示資料

- ・明治十七年海嘯関係書類
- ・明治廿五年 水災関係書類 岡山県
- ・災害に伴う集団移転関係に関する綴 (昭和四十七年)



○第五十四回所蔵資料展

「先祖祭祀の記録」

会期

平成二十五年一月五日～三月三日

おもな展示資料

- ・岡山御先供ノ図 (寛保元年)
- ・神儒仏葬祭勝手次第につき (明治五年)
- ・累代先君追善記録 (文政十一年～天保十五年)

○第五十五回所蔵資料展

「災害・疾病の記録」

会期

平成二十五年三月五日～五月三十日

おもな展示資料

- ・伝染病予防心得書 (明治十二年)
- ・明治廿六年 水災関係書類式冊ノ内 岡山県
- ・昭和四十七年七月豪雨による被害 旭川・京橋付近



※小展示「記録資料館の活動紹介」

会期

平成二十五年五月七日～五月三十日

○第五十六回所蔵資料展

「新公開資料」

会期

平成二十五年六月一日～八月四日

おもな展示資料

- ・岡山藩士知行宛行状 (明暦二年)
- ・共同済世社規約 (大正七年)
- ・井原線建設の陳情 (昭和五十六年)

○第五十七回所蔵資料展

「明治の岡山市街」

会期

平成二十五年八月六日～九月一日

おもな展示資料

- ・相撲番付 (明治十七年)
- ・岡山区丸持鏡 (明治十七年)
- ・岡山市街明細図 (明治三十九年)

■ホームページのデータベースで
検索可能になったおもな資料等

(平成二十四年九月～二十五年八月)

- ※追加入力や継続入力中のものは除く
- ・事案完結後三十年経過の公文書
- ・邑久郡西幸西村野崎家資料留帳類
- ・御野郡福島村河向家資料
- ・津山藩士金井家資料
- ・山本氏収集資料 (森下景端関連)
- ・赤穂市編入問題関係資料
- ・井原家資料 (上道郡築地山村絵図)
- ・西家資料 (軍事郵便)
- ・伊丹家資料 (戦中戦後教育資料)
- ・鈴木家資料 (戦前戦後教育資料)
- ・岡山藩士加藤家資料
- ・哲多郡則安村渡辺家資料
- ・藤井静一資料

岡山県立記録資料館だより 第9号

Okayama Prefectural Archives

発行日 平成25年9月30日
編集発行 岡山県立記録資料館
〒700-0807 岡山市北区南方 2-13-1
TEL086-222-7838
FAX086-222-7842
http://archives.pref.okayama.jp/

★記録資料館は、開館8周年を迎えました!★

